



永野 時彦

宮崎ひでじビール株式会社 代表取締役

1968年 宮崎県日之影町 生まれ

1996年 株式会社ニシダ（現ニシダHD） 入社

ひでじビール行醸造所に所属。ビール事業部統括としてブランド構築に貢献する。

2010年10月 EBO（Employee Buy-Out）を実行し、ニシダHDより地ビール事業部を取得。新会社「宮崎ひでじビール株式会社」として独立、同社社長に就任。

『宮崎農援プロジェクト』等の企画を次々に実行し、ひでじビールを国内有数のクラフトビールブランドに育てあげる。

大麦の生産が殆どなかった宮崎県内で様々な生産者とタッグを組み、宮崎県産麦芽100%のビールの開発の成功。

また九州初のホップの栽培にも成功し、10年来の目標であったオール宮崎産原料の商品化に確実に近づいてきている。

2018年11月 新ブランド『九州CRAFT』を立ち上げ、そのフィールドを九州へと広げ、宮崎はもとより九州全域の魅力的な農産物を全国・世界に伝える。

同社が生産する商品は、国内外のビアコンペにおいて数々の受賞歴があり、特に宮崎県産の和栗を副原料に使用した黒ビール『栗黒～KURIKURO～』においては、2017年に英国開催ワールドビアアワード、2022年には米国開催ワールドビアカップ及び豪州開催オーストラリアンインターナショナルビアアワードにてそれぞれ世界最高賞を受賞し、国内メーカーでは唯一、世界三大陸制覇を果たした。

同社が生産する商品は、国内外のビアコンペにおいて数々の受賞歴があり、特に宮崎県産の和栗を副原料に使用した黒ビール『栗黒～KURIKURO～』においては、2017年に英国開催ワールドビアアワード、2022年には米国開催ワールドビアカップ及び豪州開催オーストラリアンインターナショナルビアアワードにてそれぞれ世界最高賞を受賞し、国内メーカーでは唯一、世界三大陸制覇を果たした。

本業の傍ら、TOKYOガールズコレクションやエンジン01文化戦略会議など、地元延岡市内の一大イベントにおいて、市民力を束ねるリーダー的立場として、数々のビッグプロジェクトを成功に導く。